

ハッピー&スマイル

37号

発行者
社会福祉法人楽寿会
特別養護老人ホーム楽寿荘
四倉町上仁井田字横川67
Tel. (0246)32-6381



秋の味覚到来

秋の味覚の代表格と言えば、秋刀魚でしょう。果物では、栗、柿、ぶどうなど美味しい食べ物が豊富です。さつまいも、この時期ですね。そして、山から届く季節の香りと言えば松茸！焼いて、スタチをまぶして！食欲の秋ですね！九月二十七日(木)楽寿荘の恒例行事となった秋刀魚祭りが、盛大に催されました。毎年、家族の方々をお招きして、楽しいひと時を過ごしました。さて、焼き方も本格的で、炭から火を起こし、網に生の秋刀魚をのせ、うちわでパタパタ。焼き加減を見ながらお頭付きの秋刀魚がテーブルの上にならぶ時には、利用者の方々、家族の方々の笑顔がありました。



「ウェルカムスイーツ
いただきます！」

「雨の中、テントで、たくさんの
秋刀魚を焼いてくれました」

「大漁旗も飾って
華やかに！」

懐かしのメロデー

九月三日(月)男性三人組のグレイボーイズの慰問がありました。六月に続き二回目の慰問となります。



「懐かしい歌を、
時には一緒に歌いながら...♪」

歌謡曲や民謡など、生バンドの演奏に合わせて、歌ったり手拍子をしたりと最高潮！



「真剣に聞き入る皆さんでした」

そして「いただきます！」皆さんの「おいしいね〜」の声がかげられました。また、利用者と家族の楽しい昼食のひと時と職員との会話があちこちで聞かれました。職員の余興もあり、楽しいなかにも温かさが漂う秋刀魚祭りでした。



「来年もおいしい秋刀魚を食べましょうね！」

響く歌声

十月三日(水)に「のど自慢大会」が開催されました。総合会社には、自称NHKより委託されたとある職員、特別審査委員に民謡教室の片寄久子先生、審査委員長に佐藤英介施設長、審査委員に一階・二階の仲野千代美さんと五十嵐美智子さんを迎えました。

また、利用者からのリクエストに応える場面もあり、楽しい時間を過ごしました。



～GRAYBOYSの皆さん
ありがとうございました～

総勢二十三名の利用者が自慢の喉を振るわせ、おおいに盛り上げてくれました。また、聞いているだけでは足らず、利用者から飛び込みで歌を唄う方が三名、特別ゲストとして、自称「千昌夫さんの隣組」と話す、小野万次郎さんが、千昌夫さんの「夕焼け雲」を熱唱し、大盛況で幕を下ろしました。今回は衣装にこだわったり、化粧をしたりと、華やかなのど自慢となりました。また来年も元気に参加してください。



「着物を着て、気合十分！
まるで演歌歌手のようです！」

「賞状をもらい、
施設長より、記念品贈呈」



「片寄先生、いつも
ありがとうございます！」

「緊張してしまったので、職員も一緒に歌いました♪」

撮影前には髪をセット。男性は髭をそり、女性は化粧をして準備しました。久々に化粧をした自分の姿を鏡で見て、びっくりしたり、恥ずかしそうに笑っていました。赤いちゃんちゃんこを着れば、背中がシヤンと伸び、少し緊張の面持ち。カメラマンさんの前では、いつも通りの素敵な笑顔を見せてくれ、撮影も大成功でした！撮影した写真は、四倉公民館で行われる文化祭でも展示されますので、ぜひご覧ください。



「お化粧をして準備中...」

「いざ、写真撮影！
少し緊張しました」

祝 米寿

楽寿荘では、平成三十年度に米寿を迎えられた方は七名いらっしゃいます。九月十七日(月)、その方たちの記念撮影が行われました。



楽寿会ホームページはこちらから



<http://www.rakujukai.com>

